真似できないな ミミズの仕事

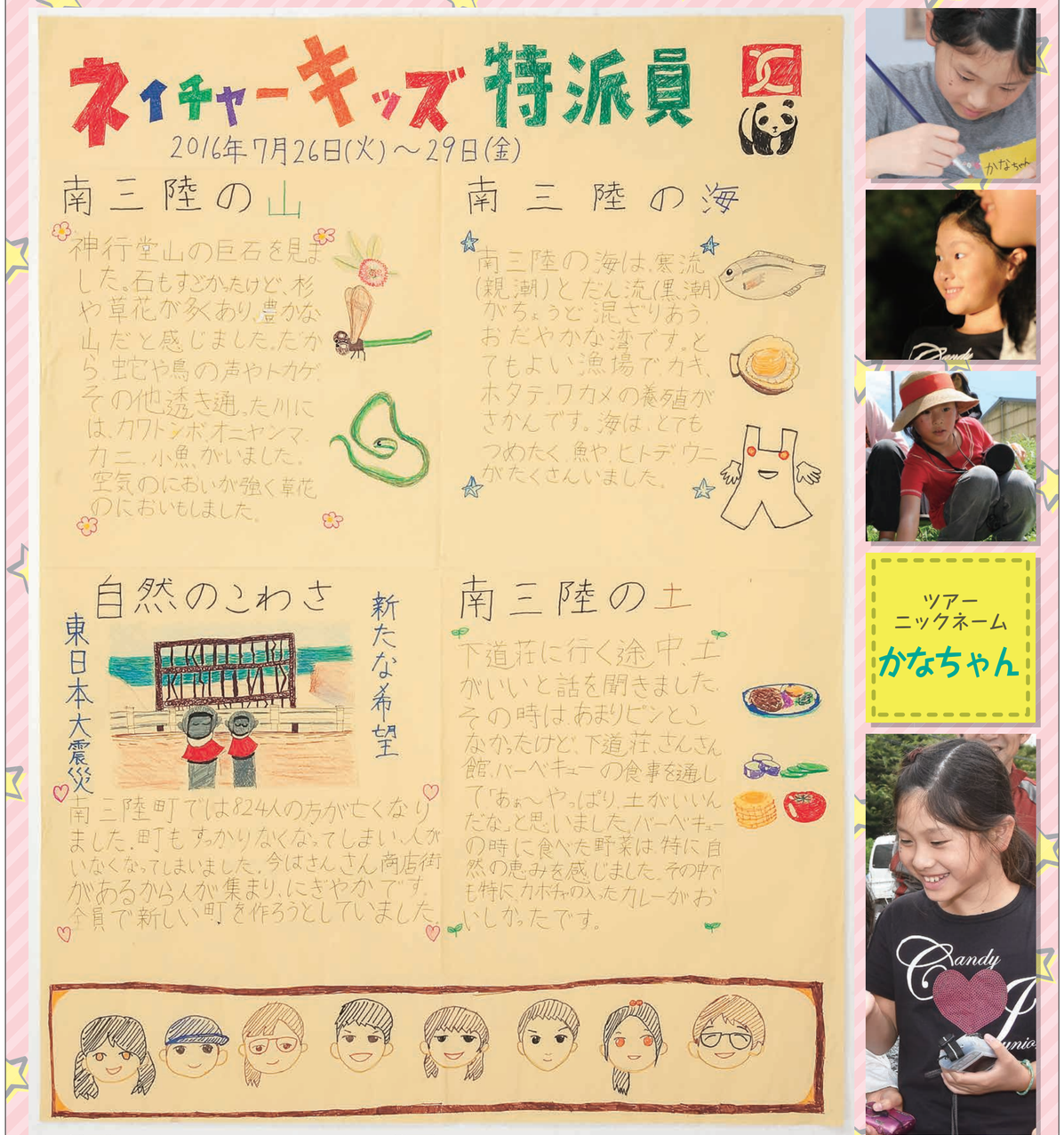
千葉県栄町立安食台小学校　五年
竹原　花仲

ミミズは土の中の養分を食べて消化する。消化したら、人間と同じでフンをする。それで栄養たっぷりの土ができる。その土で育った作物を人間が食べる。ミミズが土を作ってくれていることを私は有り難く思います。

実は、私はミミズが嫌でした。うねうね動くし、べちべちしているからです。知り合いの鹿児島県に住んでいる、稲留さんに頂いたお米に春は可愛らしい赤紫色のレンゲが咲き、爽やかな風が吹き、水に恵まれた自然の中で作られたと書いてありました。また、ミミズのおかげで栄養たっぷりの土になる絵もあって、見た目の可愛くないミミズが仕事をしていることが分かり、好意を持ち始めました。味は忘れましたが、きっとおいしかったと思います。

教科書でミミズのことは習いましたが、稲留さんのお米でイメージがふくらみ、身近に感じられました。ミミズの白い部分がバンソウコウみたいで、「大丈夫？ケガしてない？」と思うような自分になりました。町で田植えや稲刈りをさせてもらう時にミミズが土を作ってくれているのかなぁ、まるまる太った元気な野菜を見ると土が元気なのかなぁと思います。

私はこれからもおいしいご飯を食べたいです。お米、野菜、果物が育つ土を作ってもらうために、ミミズにずっと仕事をしていってほしいです。ミミズがいなくなってしまうと、土が死んでしまい、おいしいご飯が食べられなくなると思います。そんな未来は嫌です。ミミズもよく生きられるように自然を大切にして、あたたかい心で自然を見守りたいです。人間にも、ロボットにも、肥料にもミミズの代わりはできません。ミミズの他にも仕事をしている生き物も長生きしてもらいたいし、みんなも同じように感じていると信じています。だけど、まだミミズをさわれません。ちょっとやっぱり気持ち悪いです。



子孫を残せ、HOP-STEP-JUMP

埼玉県三郷市立早稲田小学校　五年
田中　望

「大切にしたい！自然と生き物」と聞いて、はじめはどんなものかなかなか思い浮かぶことがなかった。なぜなら、私は小学校に入ってからこれまで一度も「動植物に興味を持ち大切に育てていこうとする」という成績表の項目に二重丸をつけてもらったことが無いくらい動植物に興味がなかったからだ。

しかし、ある時塾の理科の授業で、植物について習った。花のつくりや受粉の仕方、子孫を残す方法など細かい部分を教えてもらった。その中でも、受粉や種の工夫した子孫を残す方法を習ったことが印象的だった。風の力を使って遠くまで飛ばす風媒花、昆虫などの力を使って飛ばす虫媒花など色々な工夫をして子孫を残す植物にとても興味を持った。

受粉によって作られた種も、色々な方法で子孫を残している。自分の力で種を色々なところへ飛ばすカタバミ。風に乗って種を飛ばすアルソミトラやタンポポ。ヒトや動物にくっついて種を運ぶオナモミ。このように子孫を残すために、植物がやっている工夫に感動した。特に、アルソミトラの種の工夫は鳥の翼のような形をしていて、風に乗って私たちの作る紙飛行機のように遠くまで飛んでいく。この植物が子孫を残すために作り上げた工夫に驚かされた。

このようなことから、植物はヒトや動物、昆虫に助けをもらって生きているということが考えられた。私は今まで動植物に興味がなかったので、植物の手助けをすることがなかった。これからは、積極的にクリーン作戦などに参加して私たちの身の回りを色とりどりにしてくださっている恩返しに、植物が生活しやすい環境を作っていきたい。また、植物の花のつくりや受粉方法、種のつくりなどまだまだ知らないこともあるので図鑑などを使って調べ、植物にもっと興味を持ち、植物を増やす手伝いをしたい。それが私の「大切にしたい！自然と生き物」につながっていくのだと思う。

◆この作文&体験記録集は、カスミのホームページでもご覧いただけます。